

社会科

地歴科教育法受講者の社会科についての意識調査について

山田 孝

【抄録】社会科の教員をめざす大学生が、社会科についてどんな理想を持っているのか意識調査を行った。大学までの学校教育の過程で、どんな社会科の授業を受けてきたのかも興味のつきないところである。この調査とあわせて、平和教育＝戦争学習についてもアンケートを行ってみた。

【キーワード】平和教育 社会科解体 地歴科

はじめに

92年度も教科教育法の講座を一部け持つことができた。私にとって教科教育法は、日常の附属学校での授業－中学の歴史、高校の世界史－を再検討する場であり、日常的な授業実践においては困難な、歴史教育・世界史教育の理論化を試みる場でもある。附属学校の授業とこの講座は、ともにフィードバックしあう関係であり、講座で取り上げた世界史教育の課題等は、附属学校での授業に反映されてきている。そうゆう意味でもこの講座を担当することは、自分自身にとっても社会科教育の再検討の場になって意義深い。

さらにこの講座を担当する理由としては、社会科教師志望の大学生諸君の考え方や理想が聞けることがある。様々な可能性の中から、一応教師を目指す大学生から、これまでの社会科の授業の内容を聞くことができるの、私にとって重要な事なのである。過大な思い入れであるのかも知れないが、社会科教師を選択すると言うことは、少なくともそれまでの社会科の授業の中で何らかの影響を受けてきたのであろうと考えられる。そうした人たちの話の中からも、社会科教育のあり方というものも見直すことができるのではないかと、今回も昨年と同様に簡単な意識調査を行った。この調査は一方で、社会科教師としての「あり方」も提起している。それは、ひとつには平和教育の問題である。平和教育は単純に「戦争」の内容だけを取り扱うものではないが、昨年と同様に戦争学習に関する日付のアンケートを行ってみた。

本年度の講座の名称だが、教育免許法改訂の関係で地歴科教育法ということになった。高校の社会科が、地歴科と公民科に解体されたのである。この社会科解体について、ここで詳しく述べるつもりはないが、この影響により、講座受講者の内容が弱々変化したことのみを書き加えておく。

1. 高校時代の歴史の授業について

高校時代の授業について、どれだけ印象が残っているのか興味深い。私も実際に高校で教えているので、どんな内容が印象に残るのか参考にしたいと思う。アンケートは、毎回講義の最初に行い、結果は全てフィードバックしながら、講義を進める上での参考資料にした。

講義の受講者は、社会科解体の結果により、20名前後の人数となった。私の講座初回参加者は、19名。その内わけは、文学部史学科16名、大学院生1名。教育学部1名。経済学部1名、合計19名であった。

(1)アンケート項目と結果 回答者19名 複数回答

①高校時代に歴史（日本史・世界史）の授業を受けたことがありますか。

- ・日本史・世界史両方とも13人
- ・世界史を受けた4人
- ・日本史を受けた2人
- ・どちらも受けていない0人

②、①の間で受けたことがあると答えたについて、その授業は、受験対策のものでしたか。

- ・はい13人
- ・いいえ4人
- ・どちらとも言えない2人

③今までの歴史の授業の中で特に印象が残っていることがあれば、その内容を書いてください。

- ・特に印象に残っていることがある16人
- ・特に印象に残るものはない3人

高校時代に、どんな歴史の授業を受けていたのかも

地歴科教育法受講者の社会科についての意識調査について

興味深いものがある。今回は全員が、日本史か世界史か必ずどちらかを受けていたことがわかるが、昨年は、46人中1人日本史も世界史も受けたことのない受講者がいた。

授業の内容についてもやはり、受験対策の授業が多いようだ。全体の84%が受験対策のもので、昨年が78%なので割合が上昇している。この受験対策の授業に関して言えば、附属学校に教育実習に来る社会科の学生は、大半が受験対策の授業の経験者であり、そうした学生にとってみると、本校の社会科の授業にはとまどう様である。

③の質問が、いつも聞いてみたいことである。昨年と同様に思うことは、特に印象に残るものはないと答えている学生が3人いるということである。大学までに、印象に残る授業・教師に出会っていないということは、どういうことであろうか。昨年は、約26%の学生が「特に印象に残るものはない」と答えている。

(2)授業で印象に残っている内容について

今回は、16人全員の意見を紹介する。

- ・中学での歴史の授業はほとんど記憶がない。高校では、授業外ではあったが、沖縄戦のビデオ（白旗を持って米軍に降伏した少女の話も）を見たときにはさすがに印象に残っている。授業自体は全く受験対策のみで、感銘を受けるようなものはほとんどなかった。
- ・こまかい内容では、その授業のすすめ方。教科書は全く使わず、歴史事項は覚えたければ、勝手にやれ、という感じの先生で、今考えると大学の講義のようだった。
- ・特にどの時代というわけではないけれど、受験用の重要ではなく、話が脱線していったときが楽しかった。
山川の穴埋めと同じことを黒板に書く先生がいて、写す気がしなかった。
- 授業は楽しいけれど漢字に略字を使う先生がいて困った。
- ・歴史の授業は単なる史実の羅列にすぎないものが多く、ただ機械的に暗記していた気がする。しかし、たまにその史実の背景にあった裏話や国家間のつながりの話が聞けた時、自分自身もすごくその話に集中できたり、印象に残って憶えようとしなくとも自然と知識になった気がする。
- ・受験対策のための授業だったんですが、世界史のおもしろさを漠然と感じました。しかし、やはり西欧、アメリカ中心の歴史を学んだため、

その他の国について、今でもほとんど認識していないと思う。

- ・授業中は、ほとんど資料集を見て、自宅でいろんな参考書から自分でまとめていたので、あまり記憶にない。
- ・内容についてはないですが、高校の世界史の授業は日程が足りず近現代史がおざなりなまま受験期に入ってしまいました。先生は、現代史は入試に出ないとか、まだ学問的な評価が固定していないくてやりにくい・・・とか言っていましたが。
- ・耶馬台国の場合について、中国の歴史書の中で耶馬台国についての位置づけで距離・方向の書いてある文章の中での位置の違いによって、大和説より北九州説のほうが有力であるということ。
- ・世界史じたい好きだったので楽しんでいたけれど、意外と脱線の方がよく憶えている。あと、3年の時、レーニンが廟の中から喋るという形式のテストがあった。
- ・日本史の先生が変な人で授業中によく得意のオカリナをふいてくれた。
- ・小学校六年の時に自分たちで日本史の歴史年表をそれぞれ個人でまとめて作ったり、東大寺の大仏の顔を同じ寸法で教室の天井に再現したりしたのが結構おもしろかった。
- ・小六の時の先生は歴史上の人物にまつわるエピソードなどをきかせてくれておもしろかった。それがきっかけで今ここに居る。
- 高三の時の日本史の先生はプリントの語句穴埋め式の授業だったのでおもしろくなかった。
- ・世界史はプリント中心で印象に残っているのはほかのいらない話だけ。

日本史は教科書を全く無視して自分のことや自分が関心のあることしか話さない教師で、ほとんど話を聞いていなかったので憶えがない。

- ・小学校の時の日本史。中・高校時代のような先生の講義スタイルではなく徹底した討論形式だった。
- ・中学校の先生が原始時代のことを絵で書いて説明してくれたのがおもしろかった。高校の先生が、歴史の裏話をたまにしてくれた。絵や写真をたくさん見せてもらった。
- ・日本史の授業で教科書にもとづきつつも少々離れて、時代の流れを説明された。中世・近世・近代史を総じてダイナミックにとらえた授業だった。

印象に残る授業の中には、批判的なものもあり、大

学生がどんな授業を望んでいたのか伝わってくる。この意識は、今の高校生の意識にも通じるものがあり、私自身の授業の反省材料にもなっている。

2. 受講者のめざす授業像

1. のアンケート結果をふまえながら、実際にどんな、授業を理想としているのか自分の考えを書いてもらった。受講者の多く、14人が「ぜひ教師になりたい、なれるのであれば教師になりたい」と答えている。現在の教員採用制度の問題点には触れないが、現実問題として、教員に採用されるのが困難であるためか、「なれるのであればいい」と答えているのである。しかしながら、「どんな点に注意して授業をしますか」と問うと、かなりしっかりしたビジョンを持って望んでいることがわかる。

(1)あなたが、社会科の教師となったときどんな点に注意して授業しますか。

- ・自分の経験から、写真・实物を見せたり、原因・結果などの流れを考えるようなものにしたい。言葉だけで覚えて何も身につかないと思うので。
- ・事実の羅列だけでなく、原因→経過→結果と自分も、そして生徒も納得できる形で歴史を教えたい。
- ・細かい事柄を教える前に、まず全体的な流れ(時間的な関係、空間的関係)をまず理解させる。その後で細かい事柄(派生してくるもの)を少しづつ覚えさせたい。
- ・教科書をそのまま読むような授業でなく、生徒も自分も一緒に考えることができるような授業がしたい。発表形式の授業は、発表する人は準備が大変だけど、授業する側にしてみれば使える方法ではないか。
- ・教科書にないちょっとしたエピソードをはさんで生徒の関心をひくようにしたい。白地図や年表の作業を入れる。黒板の字はていねいに書こうと思う。欧米以外の国についてのグループ学習ができればと思う。
- ・歴史を事実の羅列としてとらえるのではなく、自分でそれを再構成できるような歴史を教えてい。
- ・社会科の教師、特に歴史の教師というのは、生徒のその後の世界観を大きく左右すると思う。実際、今の自分が、日本はアジアの中の一つの国であるという意識がどれだけ強いかというと疑問がある。距離的に近いアジア諸国より欧米

諸国の方が身近に感じているのは、やはりこれまで受けてきた歴史教育の結果であるとおもう。だから、できることなら、もっと偏りのない授業内容をしていけたらよいと思う。

教科書ではあまり扱われていないようなアジアについて、自分自身でもっと勉強して深く扱えたらいいにではと思う。

- ・プリントの穴埋め、教科書のまとめなど教師がいなくても生徒が自分で学習していくことができることにはあまり時間を割かずに、先生がおっしゃっていたように、实物を見せたり、必要があれば学校外に出て、博物館などの見学をしてみたいと思う。
- ・歴史というものが、教科書に書かれた見方だけからなるものではなく、いろんな角度から見れば、様々な事実があることに注意したい。眞実や正義というものが、この世にはたった一つのものだけではないことに注意したい。
- ・教科書の内容を一方的に教えるといった味気のない授業だけはしたくないと思う。
- ・高校の歴史の授業は受験のためのものにならざるをえないでの、生徒を引き付けるのは難しい。そういった状況の中でも生徒を引き付けるために、歴史の裏話など興味を持っていそうな話を合間にするくらいしか思いつかない。
- ・正しい歴史の流れを伝えたい。(主義にとらわれず) 実際、歴史の場となった近くの遺跡へつれていくきたい。
- ・問題提起をして、生徒自身がいろいろ考える授業をしたいと思う。
- ・受験を別にして考えたとしても、社会科で学んだ知識は後の生活の中で生きくいくと思う。
- ・近現代史を中心とした授業。
十五年戦争で侵した数々の過ちは黙って通りすぎることはできないと思うので、その辺りを。中国、朝鮮その他の東南アジア、太平洋の島々にスポットをあてることができたらいいと思う。
- 明治維新以降の歪んだ近代観、日本のアジアに対する見方とか、戦前天皇制下での国家による臣民教育など。
- ・「遠い外国の話」、「遠い昔の話」といったように実生活から遊離した印象を与えないように、つねに生徒が自分との接点をつけやすいような授業をする。
- 以上のように、大学生諸君も、今までの体験をふまえて一定の理想を持っていることに期待が持てる。

3. 平和教育について

今日の日本の状況をどうとらえるかについては、意見のわかれるところだが、湾岸戦争における戦争協力（戦費の負担のみならず、日本の米軍基地からの出撃など）や自衛隊の海外派兵をとってみても危機感を感じずにはいられない。

また一方で、学習指導要領の改訂にともなって、「日の丸」「君が代」の学校現場での強制など、もう一度、歴史を問い合わせし、再度確認、検討しなければならない時に来ている。こうした時に、社会科の教師が果すべき役割を考えざるを得ない。その意味でも、社会科の教師として、平和教育を実践していく意義があるのでないだろうか。

あらためて言うまでもないが、「平和の問題」は戦争についてのみ学習することではない、広い意味で環境問題などあらゆる問題が含まれているが、ここでは、戦争学習のみを取り上げた。

侵略戦争=十五年戦争、アジア太平洋戦争についての基本的事項がどれだけ定着しているのか、これも受講者にアンケートしてみた。名大全体としては、教養部の安川教授が毎年アンケート結果を発表しているが、その結果は、「2割を超す大学生が、太平洋戦争の終戦日も知らない」ことである。

さて、社会科の教師をめざす受講者の大学生諸君はどうであろうか。

(1) 戦争学習についてのアンケート

①次は歴史に関する簡単な問題です。次の出来事の日付を答えてください。

(回答者19人)

昨年

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1) サラエボ事件 | 0人(78%) |
| 2) 日中戦争の始まった日 | 0人(78%) |
| 3) 太平洋戦争の始まった日 | 11人(96%) |
| 4) 広島に原爆が投下された日 | 18人(100%) |

5) 長崎に原爆が投下された日

16人(100%)

6) 日本の敗戦の日 17人(100%)

(注) 1)、2)は正確に書けた者は、0人
昨年の正解率は、質問の形式が異なるので参考程度。

②上記の歴史的な事項を、あなたはどこで学習したと思いますか。

- ・新聞、テレビニュース…… 7人
- ・中学、高校の頃 …… 5人
- ・受験勉強 …… 2人
- ・本などから …… 4人
- ・NHKなどの特集 …… 1人

昨年と質問の形式を変えたので、一概に比較はできないが、日本の敗戦の日について正確に記述できない大学生がいたのは、残念なことである。

しかし、こうした日付を知っていたからといって平和教育の効果を判断することはできない。本来の目的としては、知識のみならず、日常的な判断と行動が求められるからである。私は、教育の実践者として行動として実行できる、そして自分で判断できる人間の育成というものを目標にしている。この講座を受講した大学生諸君が、社会科教師として理想を実現できるよう期待したい。

おわりに

このアンケートも2回目を向えた。昨年と比較して大きく変わったことは、社会科解体の影響で受講者が分割されたことだろう。この結果、受講生がどう変化していくのか見守る必要があるのではないだろうか。それから、平和教育の問題がある。しかし、社会科の教師だけが取り組むことではないのだが、過去の歴史や現実の問題と直結している社会科の教員の使命は大きいだろう。その点においても、社会科の教員を目指す大学生諸君に期待するところは大きくなるのではないだろうか。